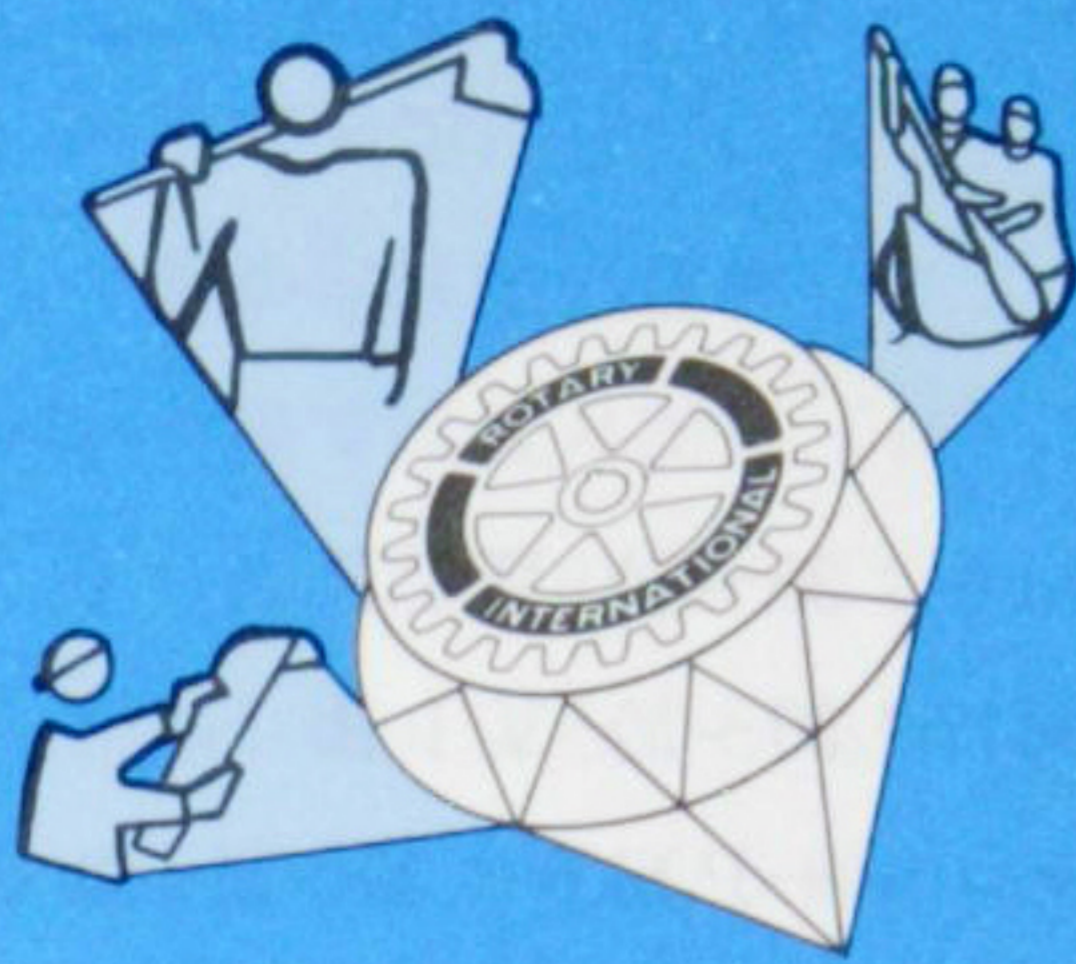


ENJOY ROTARY!



ロータリーを 楽しもう!



1989-90年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ヒュー M. アーチャー ● 第256地区ガバナー 吉野 一郎
- 会長 — 小林 英雄 ● 副会長 — 小林九満太 ● 幹事 — 五十嵐昭一
- SAA — 近藤 雄介、渡辺喜彦 ● 例会日 — 毎週水曜日 12:30~
- 例会場 — 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局 — 三条市旭町2-5-10 TEL 35-3477 田中久美子

(FAXも同番号 午後3時以後はFAXに切り替えます)

- クラブ会報委員 — 古沢 富雄、渋谷 正一、佐久間洋一、高橋 清見、小林 正義

出席会員数

会員 74名中 44名

先々週出席率

90.28% (前年同期 90.91%)

今日のお花

チューリップ、フリージャ

ヴィジター

三条南より 清水鉄男君、田辺吉洋君、石田行雄君
 三条北より 本間建雄美君、小林 満君
 燕より 五十嵐荘一君

ゲスト

上林小学校 校長 馬場道子殿

先週のメイクアップ

11/30 燕へ 外山一郎君、渡辺勝利君、加藤紋次郎君
 12/4 三条南へ 古沢富雄君、渡辺喜彦君、伊藤廣一君
 12/4 京都へ 堀川政雄君、高橋一夫君
 12/5 三条北へ 藤村義彦君、藤田紘一君、岩井数央君、
 五十嵐昭一君

会長挨拶

小林(英)会長

プログラム委員会の、社会で活躍する女性シリーズと言う企画で、今日は上林小学校の馬場道子校長先生をお迎えしました。お話をお願いしてあります。ご静聴下さい。

12月は気ぜわしい月です。思わぬ用件が飛びこんで来ます。早速ですが、来週予定しておりました年次総会を、次年度の都合で、本日繰り上げて行います。総会に若干時間が必

要ですので、今日のご挨拶はこれまでといたします。

幹事報告

五十嵐(昭)幹事

・例会変更のお知らせ

- 三条南RC — 12月25日(月) 家族忘年会 — PM 6:30 ~ 於 VIP
- 1月8日(月) 例会場変更 — PM 12:30 ~ 於 VIP
- 三条北RC — 12月19日(火) クリスマスパティー — PM 6:30 ~ 於 おくの
- 吉田RC — 12月15日(金) 忘年会 — PM 7:00 ~ 於 橋畔楼
- 分水RC — 12月26日(火) → 12月23日(土) PM 6:30 ~ 於 和泉荘
(クリスマス例会)
- 平成2年1月16日(火) 休会

年次総会

司会：小林(英)会長

只今より年次総会を開きます。この総会は三条ロータリークラブ細則、第4条会合の第1節によるものです。

今日の会員のご出席は44名ですので、本クラブの年次総会の定足数に達しております。

第1号議案 1991～1992年度、三条ロータリークラブ会長ノミニーに渡辺宏策君を推せん の件

——拍手、渡辺宏策さん挨拶——

第2号議案 1990～1991年度、三条ロータリークラブ理事及び役員、クラブ組織を会長エレクト小林九満太君に一任する件

——拍手——

上記2件につき、全会員のご賛同をいただき誠に有難うございました。

これにて年次総会を終ります。

ニコニコボックス ￥9,000

- 小林(英)君 上林小学校校長馬場道子先生のご来会に感謝申し上げます。
- 内山(裕)君 結婚記念日に立派なお花を贈って頂き有難うございました。
- 渡辺(勝)君 ボックス担当に今年のもろもろの御礼を込めて。
- 平原(信)君 本日の卓話のスピーカーが本年度女性シリーズの第二段で、意をくんでいただきましたことに感謝して。
- 榎本君 馬場校長先生をお迎えして。

卓話

上林小学校校長 馬場道子殿

今、学校で大切にしていること

1. 豊かな体験の重視

上林小学校では11月26日(日)PTA共催で餅つき大会を実施しました。収穫のよろこびと自然の偉大さに子供も職員もPも実感し働くよろこびも味わいました。この餅は、学校田(3畝を借用)から約3俵のもち米を収穫したものです。文化祭で栗おこわに6斗、おしる粉に8斗、今回11臼3斗3升を使いました。



また本年から、具も自分たちで作ろうと、1、2年はさつまいも、3年は里芋、4年はキャベツとねぎ、5年は白菜とごぼう、6年は大根を教頭先生の指導で、農家に負けないできばえでした。

また10月5日(木)は弥彦山全校登山でした。212名の子供を20班の縦割り編成にし、弁当と班に1袋のあめを持って、6年のリーダーの下、各学年それぞれの役割分担をして登頂に挑戦、全員11時には登頂成功、一人の落後者もなく無事下山しました。

学校ではこのような体験学習を重視し、その活動ができる場と機会をつくってます。

科学技術の進歩と経済の発展による社会の急激な変化は、私たちに様々な社会問題を投げかけてます。物質的な豊かさが優先されすぎ、過激な競争社会を生むこととなり、人間として本来あるべき姿である、相手を思いやる気持ちや、人間関係を大事にするといった精神的、情緒的な一面をはぐくむことを忘れてきたのではないのでしょうかと思われます。

人間は哺乳動物とちがい、生まれてから親や他の人から教わりながら継続的な体験学習を過ごして生きていくための力を身につけていかなければなりません。「三つ子の魂百まで」の通り、人間の脳細胞は成長した大人で140億、医学的にみると、3歳までにその組合せのほぼ60%が完成されるといわれます。この組合せが行われる段階での様々な経験や体験が脳細胞の刺激となり、将来の大人への成長に大きな影響を与えていくのです。今の子供はこの実社会での体験のないまま成人し、社会人となってから苦労し、自分で処理したり、解決できない若者が増えています。中国に「聞いたことは忘れ、見たことは憶え、行ったことは理解する」ということわざがあります。体験を伴わない知識だけでは真の生きる力とはならないのです。自分で正しい判断ができ、責任ある行動がとれる子供を育てることが我々大人の責任であり、そのためできるだけ多くの直接体験の機会を家庭、学校、地域社会において作ってやるのが大切だと思います。平成四年度から全面実施される新教育課程も具体的な活動や体験的な学習、体験学習を重視してます。

2. 職員研修の重視

「教育は人なり」いいふるされた言葉ですが、まさに真ずいをついています。特に小学校は判断力の幼い時期でもあり、教師の影響は大きいといえます。校長として、いかに一人一人の職員を専門職としての識見と力量をつけ、発揮させるか大きな課題です。上林小では本年「物事に集中する子供の育成」を研修テーマに、学校生活のすべての基盤である学級経営を通して全校体制で取り組んでいます。平成3年度全市の研究発表を公開する予定もありますが、勤務時間を気にせず、真に取り組む職員には敬意を表している毎日です。

研究の構えとしては、①目前の子供を直視し、子供のための研究に徹する。私たちは教育実践家である、常に子供から離れてはいけません。②子供と共に自らが計画し提案し実践しよう。③日常の生活、授業を大切にし、それを継続累積していこう。そして上林っ子の少しの変容をよろこび、またそのことが教師の生きがいとしたい、と専心しています。

価値観の多様化している現況では、共通理解にたつことは至難ですが、子供を高めるといって一つ目的意識で職員の持ち味を生かし、それを全職員で認めていくことを大切にして精進しています。子供も大人も同じで、心から賞賛し、認めてやることを忘れてはならないと思います。

校内巡視、校務遂行や進行状態等、見たり聞いたり話したりの人的コミュニケーションを大切にしています。そのための条件整備も大切な仕事のうちといえます。

しかし、教師ほど楽しみの多い仕事はないのではないのでしょうか。子供の成長、子供と共によろこびあい、苦しみあい、生きること、その事へとかかわりは何といっても幸せといえます。

最後に、これからの学校は閉鎖的でなく開かれた学校でなければならないといわれています。この意味からも、これを機会に、大いに学校へもお出かけくださいまして、教育について見ていただき、ご意見やご協力をいただきたいと思っています。

心豊かでたくましく生きる人間の育成は学校と家庭と地域社会の全体の大きな広場で育て、いきたいと思っています。

次週例会 12月13日 卓話 池田俊一会員

次々週例会 12月20日 クリスマス家族会

PoliqPlus



〳開発途上国の新生児を対称に
ワクチン投与資金協力を〳